

高知女子大学看護学会誌の創刊によせて

第 5 期 生

山 崎 美恵子*

1997年7月26日、山崎智子学会長のもとで行われた看護学会総会において「高知女子大学看護学会集録」を発展的に解消し「高知女子大学看護学会誌」を新たに発行することが決定されました。

高知女子大学看護学会は初代和井兼尾学会長から22年間の歴史を積み重ねてきました。発足にいたるまでの経緯について、もうほとんどの方が知らないのではないかと思います。永国寺キャンパスの一教室で第1回学会が開催され、看護研究というべきモデルもなく、手さぐりで他の学問領域の研究を参考としながら、ヨチヨチ歩きで発足したことを鮮明に憶えています。そして一回一回と回を重ねる毎に内容が充実し今日にいたりました。日本看護科学学会の発足（1981年）や日本学術会議への登録許可（1988年）など看護は学問としての体系化に向けて努力し発展してきました。また社会的要請にともなって四年制看護大学の新設は急増し、看護を取りまく教育環境は大きく変化しています。

昭和27年4月、わが国において初めて四年制大学としての看護教育が高知女子大学で開設されて約半世紀を経た今日、1998年4月から高知女子大学家政学部看護学科は看護学部として独立し、大学院看護学研究科が開学されました。その時期を同じくして（学会発足から23年目）、本会の高知女子大学看護学会誌第23巻1号が創刊されますことは、大変意義深いことだと思えます。

本学会会則の第3条に「この学会は看護学の進歩発展と会員相互の研鑽・親睦をはかり、もって看護の向上に資することを目的とする」となっています。日頃から積み上げた成果や新しい発見を研究結果として発表する場を会員に提供し、参加者からの評価を真摯に受け止め、また意見の交流により、新しい気づきを発見できる場を提供する役割があります。そのような目的を達する手段として毎年の看護学会があり、さらに看護学会誌への論文の掲載と会員への配布事業があります。それらをとおして看護の実践・教育・研究に貢献でき社会的評価にも耐えられるような学会の発展を祈念いたします。

*高知女子大学看護学部長